

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表				事業所における自己評価結果			
		にじの丘							
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点		課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		7		限られた空間の中で、その場の状況に応じて、活動スペースを分ける工夫をしている。		利用者が車椅子使用が多いので、布団や車椅子で活動スペースが狭く感じる。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		6	1			人数調整をして、安心、安全な環境で活動できる様にしていく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		2	5			下駄箱やトイレは分かり易くなっているが、トイレや廊下が狭く、介助がしにくい。利用児童の特性に応じ、安心して過ごすことのできる環境づくりに努めている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		4	3			毎日清掃している。子供たちが触れるものの消毒等も感染予防の為にしっかり取り組みたい。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		7				ミーティングなど、情報共有する機会を増やし、業務改善に努めている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。		3	4	迎時や面談時に保護者から聞き取ったご意見を業務改善につなげていけるよう、スタッフ間で共有している。		午前午後と利用児童がいるため、話し合う時間が中々取れないとの意見があったため、職員の意見をその都度聴ける様な体制を設け、業務改善につなげていけるよう努めている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		4	3	送迎時や面談時に保護者から聞き取ったご意見を業務改善につなげていけるよう、職員間で共有している。		評価表の結果やご意見を業務改善につなげていけるよう、努めている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		6	1			職員面談やアンケートを実施し、改善に取り組みたい。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		2	5			保護者アンケートを実施し、改善に取り組みたい。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		5	2	研修の内容を議事録にまとめ、共有できるようにしている。		研修の機会はあるが少ない。得た情報は職員間で共有していく。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		6	1			今後も継続していく	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。		7				今後も継続していく	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		7				今後も継続していく	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		7				職員全員でカンファレンスを行っている。今後も利用者の状況を捉えながら、必要な支援を提供していく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		5	2			アセスメントの確認はおこなっている。今後も職員全員が周知しているか確認しながら継続していく。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		7				ガイドラインについての学習会を行い、理解を深め、具体的な支援につなげていく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		6	1			利用者や保護者の意見も踏まえながら、活動プログラムを検討していく。また、しっかり職員全員で話し合える場を設けられる様に努めていきたい。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。		6	1	日々子どもの様子やニーズによって活動プログラムを組み立てている		利用者や保護者の意見も踏まえながら、活動プログラムを担当職員を毎日替え、プログラムを考えている。今後は、職員の負担の軽減も視野に入れつつ、支援を考えていきたい。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。		6	1	集団活動を重視しているが、限られた時間の中で、個別活動にも取り組んでいる。		個々のニーズを捉え、個別活動の充実にも努めていく。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。		6	1			今後も、朝や養護引き取り後の申し送りがしっかり出来るように努めていく。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		2	5	送迎の関係上、振り返りができない場合は、翌日の朝礼時に情報共有を行っている。		午前午後と利用児童がいるため、話し合う時間が中々取れないとの意見があった。日報の作成や支援終了後の振り返りの徹底など、情報共有を綿密にしていくための時間配分が今後の課題なので、早急に解決に努めたい。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。		7				個々の支援内容を日々詳細に記録し、支援の充実を図っていく。	
	23	定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。		7				午前午後と利用児童がいるため、全員揃って話し合う時間が中々取れないとの意見が多かった為、改善に努めている。	

関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			今後も継続していく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1		連携を意識し、医師や関係者との漫談等の話し合いが行える機会を設けるなど、意見交換が出来る場を作るなど取り組んでいきたい。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7			知り得た情報を全スタッフ間で共有できるよう、報告会や話し合い、記録作成を行っていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		情報交換や引継ぎを該当施設及び関係者で行っている。	今後も継続し、知り得た情報を全スタッフ間で共有できるよう、報告会や話し合いの場を設けていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	2		研修に参加する時間の確保が難しいが、今後は研修への参加も視野に入れたシフト作成を行っていく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	5		児童館やお出かけイベント等で活動する機会を設けていきたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	2		連絡網のやり取りや面談だけでなく、保護者様と連絡が取れる関係性を積極的に築いていけるように心がけていく。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	5	情報共有を行う際や面談時などに、保護者の相談を受けている。	保護者支援を継続しつつ、保護者支援の充実を図るためにスタッフの教育を行っていく。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6	1		今後も丁寧な対応を心掛け継続していく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			今後も継続していく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7		同意を得ている	今後も継続していく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			今後も継続していく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	1		親子参加のイベントは開催しているが、もっと多くの保護者様に参加し、幅広い交流が出来るように、参加しやすい、オンライン開催などの代替手段を模索していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			今後も継続していく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7			今後も継続していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		鍵付きの書庫にて保管している。	今後も継続していく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			今後も継続していく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	3	安全確保という状況特性上、公開イベントなどが開催できていない。	安全を確保を考慮した上で、地域の方向けのオンラインイベントや広報誌の配布等、代替案を模索していく。

非常 時等 の対 応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			保護者等に取り組みが認知されづらいため、月の防災訓練や防災に関する学習など、利用者の防災意識を高める取り組みを行う。等、今後周知していきけるようにしていきたい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			今後も継続していく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7			今後も継続していく。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			今後も継続していく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			今後も継続していく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			今後も継続していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			事例集計の作成や、些事でも記録することで危機管理意識を高めるよう意識しているので、今後も業務改善に繋げていく様に、継続していく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			研修が実施される場合は多くの職員が積極的に参加し、職員間でも注意喚起を行うなど、一層の改善を意識して行っていく。また、委員会でも意識向上していく。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7			今後も継続していく。	